

小さくなっていくまちからの話

現代、家は有り余る存在になった。高層化するマンション、狭い敷地に密に並ぶ住宅。そして老朽化し、朽ちるのを待つだけの家も多くある。

でも、だからこそ生まれたコミュニティーもそこには確かに存在する。例えば昔からある路地裏の住宅街のような、ご近所同士の交流がそういえるであろう。

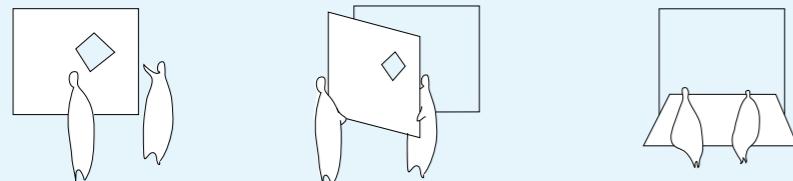
このような交流を持つ1つのまちが、これからの方を考えることのできるような試みを発信できたらどうだろうか。

例えば、家の壊れたところや古くなりすぎたところを取り除いていく。人が病気を治すために悪い部分を取り除いていくように。そうしたら、家は少しづつ時間をかけながら小さくなっていくだろう。でもそれは、新しい交流の空間と、まちが新しく変わっていくための機会を与えるものになるのではないか。

フロム・ローカル。

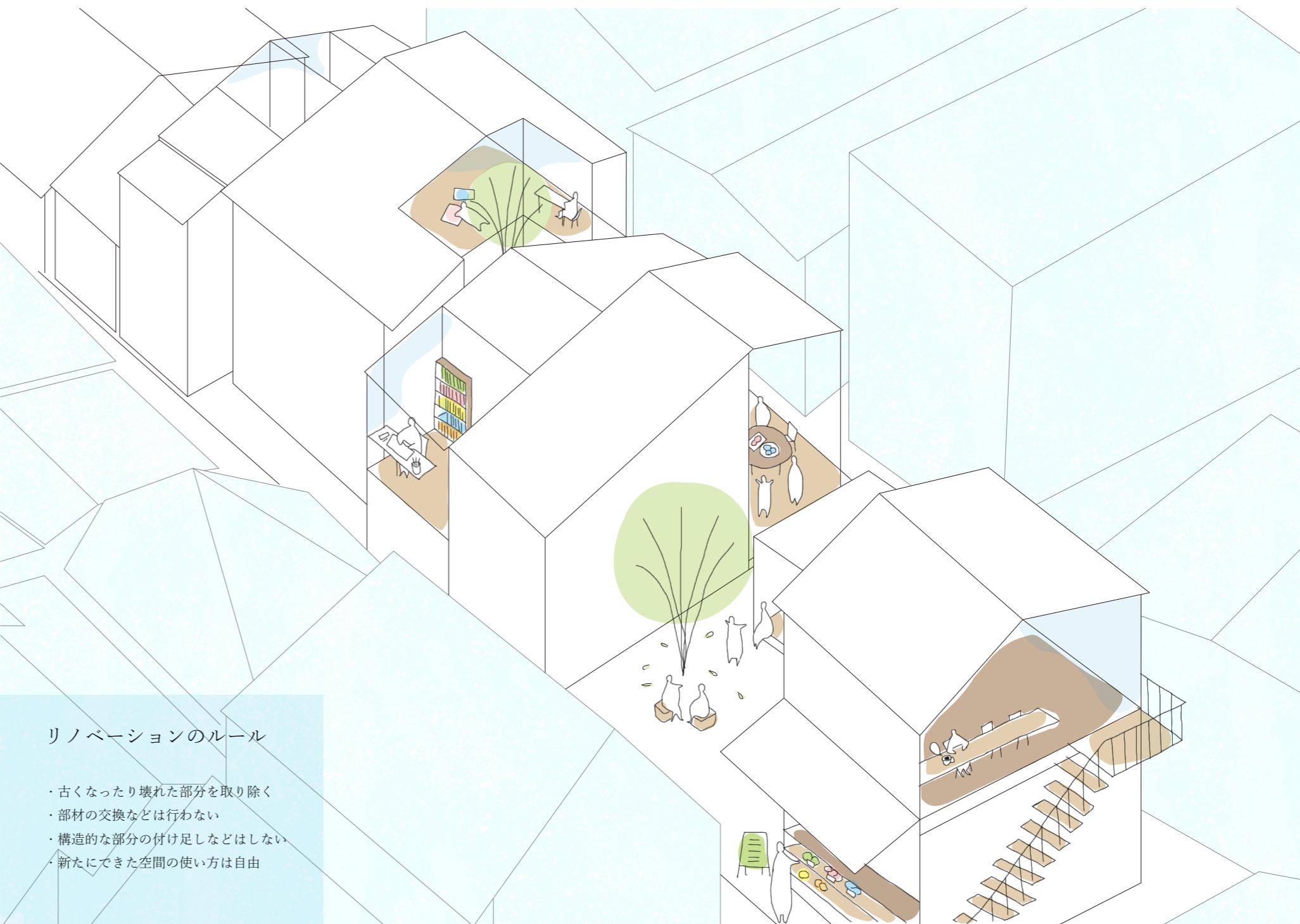
増えすぎた家と昔ながらのまちが、新しい時代へとゆっくりゆっくり進んでいくための、ローカルだからこそできるまちづくりの話。

コンセプト：地域が一体となりはじめる、新しいまちへの準備

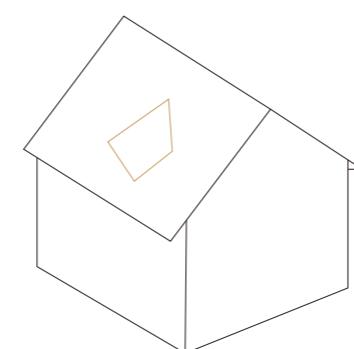


リノベーションのルール

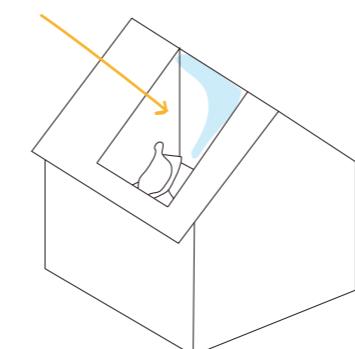
- ・古くなったり壊れた部分を取り除く
- ・部材の交換などは行わない
- ・構造的な部分の付け足しなどはしない
- ・新たにできた空間の使い方は自由



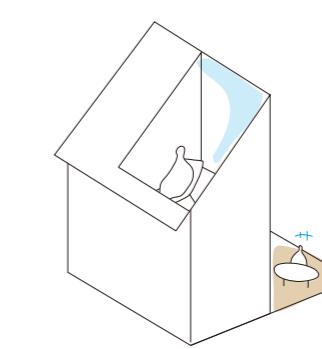
ダイアグラム



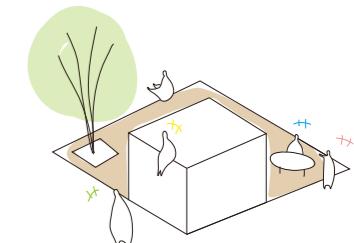
古くなっていく住宅
悪くなる部分ができる



悪くなった部分を取り除いていく
それは内部の空間を豊かにしていく



家はだんだん小さくなっていく
外部との関係も豊かにしていく



小さくなった家は外との関係を築きながら
新しいまちの一部として、終わりを迎えていく